

組合士 アラカルト

大阪府塗装工業協同組合
専務理事・事務局長

いしだ 悟一さん

事務局の仕事は“舞台演出”

「協同組合はサービス業、あるいは、何でも屋、よろず相談所」。大阪府塗装工業協同組合の石田悟一専務理事・事務局長（平成6年7月から勤務）は、自らの仕事を総括する。当然、「組合員にとって喜んでいただける事業が、そのためのアイデア探し」の日々だが、あくまで自然体の組合運営の手法には、「なるほど、こういうこともありか」と気づかされるヒントも多い。

財務基盤強化につながる事業を

同組合の設立は昭和22年（創立は大正8年）、その長い歴史の中には、赤字決算続きで運営に苦勞した時期もあった。それを乗り越えられたのは、組合の先人たちが財務基盤を確立し内部留保を積み上げていたからであり、内部留保重視の財政は組合事務局の伝統になっているという。現在の組合員数は118社。その数はピーク時の平成10年の半数程度となっているが、賦課金は据置きである。これも、「財務基盤の強化を念頭に、組合を共同事業で経営する体質に転換してきた結果」と石田さんは説明する。

とはいえ「事業収入は経済情勢に正比例するもの」であり、長期低迷の経済状況に「安穩としてはいられない」との危機意識は強い。そこで、「経済の波の影響をあまり受けない収入源は何か」を模索し、拡充してきた事業がいくつつかある。

「つながり」をキーワードに

「つながりを大切にする」は、石田さんの組合運営のカギの一つである。平成

その一つは労働保険事務委託事業である。昭和38年に労働保険事務組合の認可を受けていたものの、従来、あまり活用されていなかった。しかし、雇用保険や労災保険の整備が厳しく迫られる近年、少数事業者である組合員企業と組合員から請負で働く一人親方は、その重要性は理解しながらも手続きまでは手が回りにくい。そこを組合として細かくフォローするようにしてきた結果、組合員の「便利だ、助かる」という評価も高まり、右肩上がりの事業に成長している。

もう一つ、組合収益としては大した金額ではないが、好評を博しているのが「季節ギフトあつせん事業」である。季節の挨拶は組合員にとっては必要不可欠ながら、「コストを抑えて見栄えのするものを贈る」のは簡単ではない。ここに着眼した組合員へのサービス事業として「お手頃価格の、ピンポイントに絞った商品構成」のギフトセットを組合独自で提供している。こういう場面で、石田さんのユニークなアイデアが活きる。たとえば、本社が大阪にある大手ハムメーカーから特別価格で用意してもらっているハムのギフトは、「地元つながり」に着目して実現した商品なのである。

13年から同組合が続いている「環境美化塗装指導事業」はその象徴である。そもそも、大阪府警からの「低年齢化する青少年犯罪の対策として青少年の健全育成を図りたい」という相談に、「周辺地域の落書きを塗装作業で消して、地元の青少年の道徳意識の啓発と、地域住民の安全安心な街づくりにつなげては」と提案してスタートした。

現在では、地域の公立中学校からの要請により中学生の職場体験として組合が塗装指導をする校内美化活動にまで拡がりをみせている。さらに、平成21年度からは「街頭犯罪ワースト1」返上を目指す大阪府から、地域の落書きを地域住民が自主的に消去する事業を立ち上げるので協力をしたいとの依頼があり、平成23年度までの3年間、実施協力を行っている。こうした活動は、すべて組合員が無償で行っている。「組合員さんは“しんどい”とおっしゃりながらも、誇りとプライドを持って、喜んで実行されています」と石田さん。「知名度と期待の表れであり、一種の有名税みたいなものです」と言うと、みなさん納得されま

す」と笑う。

もう一つ、「突然、訪問された方へは丁寧に対応する。組合員以外の方から電話があっても対面以上に丁寧に対応すること」も重視している。地元で中央会や関係団体から相談があった時にも、で

きるだけ応えるようにしている。「思わぬ人物や団体、企業から相談を受け、それがユニークな組合事業に発展したり、人的ネットワークの充実に直結したりする」と実感しているからである。

さらに、「組合員の方々が組合を辞めない理由を明らかにすること」も心がけている。そこで、組合を脱退した組合員も「潜在的な組合員」と位置づけ、「組合員でなくなったデメリット」を教えたいたただくようにしている。こういう「つながり」が、トップの代替わりの時などに、もう一度、組合に加入していただけるチャンスになると考えているのである。

120%の活躍ができる事務局に

このほか、産・産連携で新しい塗装工法の開発と普及にも取り組んでいるが、「地域に貢献したり、新しい工法でお客様をつかんだりするのは、組合員のみなさんにとつての“檜舞台”と捉えている石田さんは、「この舞台に気持ちよく立つてもらうための準備、言わば演出をすること。組合事務局の仕事はこれしかない」と言い切る。

そこで、現在もフル活動の事務局職員が、さらに「100点満点で120点の職員であること」を目標に仕事ができるように、「何かと困難も多いけれど、それなりの評価、対価が得られるような体制をつくりたい」と模索中だ。

